



ROTARY  
BRINGS  
HOPE

ロータリーは  
希望を  
もたらす



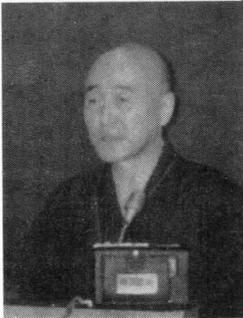
会長 山口篤之助 幹事 松田士郎 クラブ奉仕 市川輝雄 職業奉仕 庄司嘉雄 社会奉仕 布施隆夫 国際奉仕 中江 亮 青少年奉仕 塚原初男

出席報告：会員 76名 出席 53名 出席率 81.54% 前回出席率 81.54% 修正出席 59名 確定出席率 86.15%

ゲストスピーチ

「ダルマ様」について

池田好雄君



只今御紹介いただきまし  
た立川R.Cの池田でござい  
ます。貴R.Cの佐々木、藤  
川両氏と同じく禅宗の曹洞  
宗のお寺です。

山形県、しかもこの庄内  
地方では各宗派色々ある中  
で、特に禅宗の善宝寺さん  
を筆頭とする曹洞宗のお寺さんが非常に多い訳で  
す。皆様の中にも、直接的にも間接的にも曹洞宗の  
お寺さんと、何かかかわり合いがある事だと思いま  
す。

禅のお話の中で特に頻繁にあまりにも有名な坊さ  
んと申しますか、大変に知名度の高い坊さんの中で  
誰の名をあげるかと申せば、私は、おそらく「ダル  
マさん」の一人に尽きるのではないかと思います。  
その他有名な坊さん、禅宗だけでなく数多くの宗教  
の中にも数多くいると思いますが、ダルマさんほど  
知名度の高い方はおられないと思います。しかも、  
ダルマさんは今から1500年程前、日本人でもなく、  
中国人でもなく、インド人であります。そのインド  
人のダルマさんが日本に伝えられまして、今日の20  
世紀に於て、ダルマさんの語録等を紐解いてみます  
と、我々の日常生活、茶飯事に於ても大変良い事を  
言っておられまして、又、大変に役立っております。

その様な事で、今日はダルマさんの語録の全てを

申す事は不可能ですが、その一端に触れてお話を進  
めてみたいと思います。

ダルマさんに対する理解度は、割とダルマさん、  
ダルマさんと言っている割には、あまり良く理解し  
ていない様です。私の知人に「ダルマさんとはどん  
な人か」と問うてみますと、「あれは選挙の神様で  
すネ」と答が返って来ました。ダルマさんと選挙の  
結びつきの歴史的背景はわかりませんが、おそらく  
七転八起とか、縁起をかつぐと云う事で“目を入れ  
る”という事から選挙に結びついたのではないかと  
思っております。

インドといえば、仏教の発生地として“シャクソ  
ン”即ち“お釈迦様”もインドの一国の王子さんと  
して生まれております。お釈迦様より数えて下る事  
約1000年して、ダルマさんが…。ダルマさんもやは  
り一国の王の第3王子として生まれた方です。とこ  
ろが、どういう訳か世の無情を感じ、あるいは世の  
中で生きていく苦しみというものを体験しながら、  
ある一つの動機がありまして、将来、国王になれる  
という名誉を捨てまして、ある一人の有名な指導者  
につきまして禅の道に入ったわけです。

この禅の道でダルマさんが提唱しました事は、お  
釈迦様、仏教の教えているものは、単なる耳学問で  
は駄目だ、単なる語録を一生懸命、一行づつ読んで  
いった事とて、それは単なる思想に終わってしま  
う。つまり理解に終わってしまう。私達は、仏教というも

庄内空港の建設を推進しましょう

のは、理解という事も大事だが、それと同時に体解をしなければ駄目だ。頭の中の理解にとどめずに、体での理解、つまり体解が大事だ。お釈迦様の教えは座禅をしないと血となり肉とならぬ…と、座禅をといた第1人者がダルマさんであった訳です。

そのダルマさんが、インドから中国に渡ってきた訳です。中国に渡ってくる迄のインド時代のダルマさんの面影というものは、だいぶぼやけております。歴史的な史料とか確実な史料というものは、ほとんど無いといっても過言でない。ダルマさんの語録はインドではなくして、中国に渡ってから、やがての日に少林寺という寺に入って「面壁9年」といって、壁の方に向かって9年間ずうっと座禅をされた。その前後あたりの語録が我々の中に伝って来ていると言われております。

もともと、ダルマさんはおしゃべり好きだったそうです。縦横無尽に説法をして歩いた期間が67年間におよんだと言われております。つまり、大変な論客であったと言われております。そのダルマさんが中国に渡ったとたん「無口寡黙」の人となった。色々問われても、用件のみしか話しをしなくなった。

例えば、梁の武帝との問答で、「私は一国の王様として、世の為、人の為だけでなく、お坊さんの為にも、貧しい人達の為にも、手のほどこす限りの事をやってきた。きっと何らかの功德がありましょネ」と尋ねた。するとダルマさんは、「無功德」とだけ答えた。「あなたは国王として良い事を沢山やった事は事実です。けれども功德はありません」この中味を一つの言葉で表現すれば「無功德」と言えると思います。

インドで縦横無尽にやった説法のギリギリの最後の所、結論の扇の要の所が無になって、黙になってしまって、寡黙になってしまって、ダンマリになってしまった。

中国に入った時、ダルマさんの年齢は約150才位と言われている。150才、まさかと思われるでしょうけれど、ダルマさんは私達の常識では考えられない人なのです。

ある冬の寒い日、慧可(えか)という修行僧がダ

ルマさんの所に入門を願いに来ましたが、ダルマさんは入門を許可しなかった。一晩明けても帰らない、雪にももれている慧可を見て声をかけた。「私の弟子になるには、そんな生やさしい考えではダメだ。帰りなさい」と。その時ダルマさんは次の様に語られた。「能く行じ難きを行じ、能く忍び難きを忍ぶといえども、尚至る事を得ず」と。……皆さん、どこかで聞いた事がありませんか?…… そう言われた時慧可さんは、どうしても駄目ですが、それならばと言って、左腕をたたき切って、血のしたたり落ちる左腕をダルマさんに差し出した。これがあの有名な雪舟が描いた「慧可断臂の図」(国宝)です。これが、ダルマさんと慧可さんの激しい、きびしい出会いだった。そして入門を許された。

我々の禅の仏法の一番の大先輩のきびしい出会いにより、その後ダルマさんの教えがずうっと今日迄続いて来たという足跡が残されていると思います。それが、あの終戦の詔勅の中にダルマさんの言葉があったのです。「堪えがたきをたえ、忍びがたきを忍び……」と。どういう訳でダルマ様の言葉が詔勅の中に入ったかと言いますと、当時、終戦時の総理大臣の鈴木貫太郎さんが、自分の精神的指導者としてつかえていた人が山本玄峰さんで、三島の龍沢寺(禅宗臨済宗)の住職さんでした。その山本さんが前に住んでおったお寺が東京上野の谷中にある全生庵(今、中曽根首相が時々座禅に行くお寺)というお寺であった。その山本玄峰さんに禅を学んでおったのが鈴木貫太郎総理だった。

この戦争、いよいよどうするかと言う時に、自分で決めかねて、山本玄峰さんに聞いてみようという事で、8月12日、三島まで鈴木総理の使者を出した。山本玄峰さんの返信書簡の中に、「貴下の御奉公はこれからです。どうか行じがたきを行じ、忍びがたきを忍んで、武器を捨てて下さい。そして平和国家の再建に尽して下さい……」と書かれてありました。これが天皇陛下の終戦の詔勅の中で、「堪えがたきをたえ、忍びがたきを忍び……」という一説が入ったんだという事が、おそらく事実だと思います。

ダルマさんというお方は、日本が負けたといっ

はダルマさんが出てきて、勝ったといっちはダルマさんが出てき、選挙だといっちはダルマさんが出てきて、色々な場面にダルマさんが出てきます。

1500年前のお方ではありますが、なおかつ今日ダルマさんの命というものは、さんぜんと輝いていると私は思います。

☒

☒

マックスピカードという人は、人間は黙、人間の発する言葉は、まず根元は、扇の要は何だかという、「大いなる沈黙である」と言っています。その沈黙が用がある度に言葉となって花咲き、言葉となって役立ちますけれど、その言葉の役目が終ると、再び沈黙に帰って来るのが本当の言葉である。

しかし、我々の巷に流れている言葉は、どうでもいような、騒音のようなものが朝から晩まで流れています。それは本当の言葉でない。本当の言葉とはどんなものか。マックスピカードは「大いなる沈黙である」という言葉で私達に教えてくれました。

私は山形県で生まれ、山形県の言葉話し、山形県で生活していますが、“日本の国の言葉というものがこんなにきれいで美しい言葉だったんだなあ”と発見したのはついこの間でした。

一つの動機がありました。

役者さんの浜田寸射子さんの『ことばのしらべ』という演劇がごございます。講演がごございます。その

『ことばのしらべ』というものは、夏目漱石とか紫式部とかの古典を彼女が読む訳ですが、朗読でもなく、歌舞伎でもなく、講談でも、ましてや落語でもない。その朗読の中に自分の立体的な動作が入ってくる訳です。先日、山口県の宇部市にいる知人より彼女の講演を知らされ、宇部市まで行き聴いて参りました。会場は700～800人の市民がおりました。会場は寂（じゃく）として声なく、浜田さんの講演を聴いて日本語というものは、こんなに美しいものだったのかと初めて知りました。私は八臓が高鳴る思いでした。実に感動いたしました。知人より浜田さんに紹介していただきました。東北地方では、仙台で1度だけ講演があったそうです。次の講演は、10月に東京の国立劇場であるとの事で、もう1度感動してみたいと思っております。

私達は今、方言のウヘンときたないもの、ウヘンと悪い言葉にそまりつつある。今や私達はどれが良い言葉か、悪い言葉か訳がわからなくなってきている。

浜田さんの講演を聴いて、こんな素晴らしい方言というものを私達は残していく為には、日本の国の言霊（ことだま）というもの、こういうものなんだという事を忘れてしまっては、良いものは残らないんだ。庄内の良い方言のために、毎日の言葉、毎日の生活の中に於ても、そういうものを一度体の中に入れておく必要があると思います。

## 会長報告

山口篤之助 君

1. 先週、例会後開かれまして臨時理事会についてご報告いたします。たびたび申し上げますが、9月上旬G.S.Eの受け入れについて、当初は例会にお招きし、改めて歓迎会を予定していましたが、時間の都合上、9月9日(火)の例会を時間変更し午後6時点鐘で歓迎会を行う事に致しました。尚登録料は1,000円でございます。
2. 次週9月2日(火)は、定例の理事会を午前11時30分より行いますので、理事・役員の方々のご出席をお願いいたします。
3. 地区ガバナー事務所よりポール・ハリス・フェ

ローの証書とメダルが送られて参りましたので、お渡しいたします。

該当会員 佐藤 忠 君  
吉野 勲 君

## 幹事報告

松田士郎 君

1. I.G.F、年次大会の参加者募集申込〆切日は今月末日。各会員はどちらかに是非御参加下さい。
2. 例会時間変更のお知らせ  
鶴岡R.C、G.S.E歓迎会の為、9月9日(火)の例会を  
時 間 P.M.6:00  
場 所 物産館3階ホール

登録料 1,000円

長として。又、大先輩であります立川R.Cの池田さんを今日のゲストにお迎えしました事に対して。

## 委員会報告

### 親睦活動委員会

“布花教室”のご案内(鶴岡R.C会員の奥様へ)

場所 商工会議所(物産館3階)

開催日 第1・3木曜日

P.M.1:00~3:00

費用 ① 最初 4,000円程(工具代)

② 毎月 1,000円程(材料費)

講師 松山貞子さん(松山俊三君の奥様)

61年度計画

9月	9月25日 第1回開催日 説明とカーネーションのコサージュ
10月	すすき・桔梗
11月	高原の小菊・赤い実
12月	クリスマスの花 ポインセチア・コサージュ
1月	大輪のバラ・パピエ
2月	アネモネ・パンジー
3月	チューリップ・ひな菊

## お知らせ

坂本耕一君が輸血を必要としております。A型の献血者は事務局まで御連絡下さい。

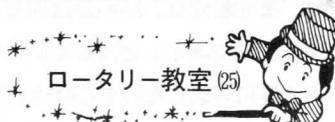
## スマイル

- 佐藤 忠君 PHFメダルと証書を授けて。  
 吉野 勲君 PHFメダルと証書を授けて。  
 佐々木誌彦君 連続3回欠席した事と、スポーツ少年団の卓球親善試合で寒河江R.Cのメンバーにお世話になった事を感謝して。  
 藤川享胤君 “布花教室”を開講した親睦委員長として。又、大先輩であります

## ビジター

温海R.C 本間 毅君

鶴岡西R.C 古川 暁一君



### ロータリー小史4 (1370回会報より続く)

その翌年、ポートランドでおこなわれたロータリーの第2回大会で、当時のロータリーの指導的人物のひとりであるベンジャミン・フランクリン・コリンズもまた、他人のためにつくすことの意義と重要性を説き、ロータリークラブは“Service, Not Self”(無私の奉仕)を根本精神として、結成されねばならないと強調しました。この二つの言葉は、後年“*He Profits Most Who Serves Best*”(最もよく奉仕する者、最も多く報いられる)および“*Service Above Self*”(超我の奉仕)とそれぞれ修正されて、すべてのロータリアンの座右の銘となり、ロータリーの誇るスローガンとなっています。しかし、この二つが1950年のデトロイト大会で公式にロータリーのモットーとして採用されるまでには、40年の歳月を必要としたのです。

アメリカ以外の国に、ロータリークラブを結成しようとするポール・ハリスの最初の目標は、カナダのマニトバ州ウィニベッグに向けられ、紆余曲折のち、1911年にウィニベッグ・ロータリークラブがうまれました。このクラブの創立によって、ロータリーは国際的なものとなったのです。なおこの年、1911年には現在の『ロータリアン誌』の前身である『ザ・ナショナル・ロータリアン』(誌)が創刊されています。

(次回に続く)